

素晴らしき日曜日

『素晴らしき日曜日』（すばらしきにちようび）は、1947年（昭和22年）7月1日公開の日本映画である。東宝製作・配給。監督は黒澤明。モノクロ、スタンダード、108分。

あらすじ

戦争の傷跡が残る東京。雄造と昌子のカップルは日曜日にデートをするが、手持金は35円（現在の貨幣価値に換算すると、約3,500円）しかない。一緒に住むこともままならなかった2人は住宅展示場を見学するが、10万円の家は高嶺の花である。二人でも借りられそうなアパートを訪ねるも無駄骨だった。子供の野球に飛び入りすると、雄造の打ったボールが饅頭屋に飛び込み、損害賠償を払わされる。次に雄造は戦友が経営するキャバレーを訪ねるが、物乞いと勘違いされ相手にしてもらえない。途中、雨が降るが、昌子の提案で日比谷公会堂に「未成交響楽」を聴きに行くことにする。しかし、安い切符はダフ屋が買い占め、抗議した雄造は袋叩きにされてしまう。

雄造は昌子を自分の下宿に連れて行き、彼女の体を求める。怖れた昌子は部屋を飛び出すが、やがて観念したように戻ってきて、泣きながらレインコートを脱ぎはじめる。心を打たれた雄造は「ばかだな、いいんだよ」と、昌子をいたわり詫げる。

雨がやみ、再び街に出た2人は喫茶店を開く夢を語り合う。そして日比谷野外音楽堂に足を運び、雄造はオーケストラの指揮の真似をして昌子に「未成交響楽」を聞かせようとする。しかし、いくらタクトを振っても曲は聞こえない。すると昌子はステージに駆け上がり、客席に向かって叫ぶ。「皆さん、お願いします！どうか拍手をしてやって下さい！」この言葉に励まされた雄造が再びタクトを振ると、『未成交響楽』が高らかに鳴り響くのだった。

スタッフ

監督：黒澤明 製作：本木荘二郎 脚本：植草圭之助 撮影：中井朝一 美術：久保一雄 録音：安恵重遠
音楽：服部正 演出補佐：小林恒夫 照明：岸田九一郎 音響効果：三縄一郎 編集：今泉善珠

キャスト

雄造：沼崎勲

昌子：中北千枝子

与太者：渡辺篤（ロッパ一座）

饅頭屋：中村是好（エノケン一座）

街頭写真屋：内海突破

同：並木一路

闇屋風の男：菅井一郎

ダンスホールの支配人：清水将夫

アパートの受付の男：小林十九二

浮浪児：水谷史朗

ダンサー：日高あぐり

闇屋の連れの人：有山緑

闇切符売り：堺左千夫

ベーカリーの親爺：河崎堅男

アパートの主人：森敏